

## 第 4 回県西地区地域医療構想調整部会の概要

開催日時 平成 28 年 3 月 15 日（火）13 時 00 分～14 時 30 分

会議概要 地域医療構想の骨子案及びデータを踏まえた地域の課題や施策の方向性等について議論した。

- 議題（１）県西地域の構想区域及び平成 37 年（2025 年）の必要病床数について  
 （２）神奈川県地域医療構想骨子（案）について  
 （３）県西地域の課題と施策の方向性について

## 主な意見

## 【機能分化】

- ・急性期が減ることにより在宅医療に影響が出ることを心配しているが、救急医療体制についても、急性期のベッドが減らされることで患者の受入れを断らざるを得なくなることを心配している。
- ・県西地域の慢性期を減らす、あるいは地域完結型にするということは、現在、県西地域で引き受けている他の地域で慢性期が増え、地域完結型に転換していくこととリンクしている。慢性期については、他地域との調整や整備状況を見据えながらゆっくり動かなければいけない。すぐさま減らすという訳にはいかないだろう。
- ・慢性期については、2025 年の数字が本当に必要な病床数だとして話が進んでいくと、患者が療養病床に入りたくても入れず、在宅医療等に進んでいくという状況になりかねない。2025 年までに地域包括ケア体制、かかりつけ医、在宅医療、在宅での看取りなどの人的な体制が本当に進んでいくのかどうか見極めていく必要がある。
- ・この調整部会で決まったことは、実はこの地域の住民に大きな影響を与える可能性がある。慢性期が減っていくことによって慢性期に入れられない人が出現する可能性があり、それは自宅で介護するとか、自宅で亡くなるケースが増えてくるということになる。
- ・高度急性期がもう少し分化をして高度急性期から急性期に、あるいは急性期から回復期に機能分化をさせていくことが、本当にこの地域の住民の理解を得られるかどうか。

## 【病床機能報告】

- ・この地域は、回復期が非常に不足している、急性期が多い、慢性期が多いなど推計上はそうなるが、医療資源投入量（レセプト点数 3,000 点、600 点など）で区分し定めたものと、各医療機関が病床機能報告で自己申告しているものとはズレがある。
- ・急性期といいながら回復期の機能を持っている、慢性期といいながら回復期の機能も一部持っているので、病棟単位の報告となっている病床機能報告制度では、機能の分化が必ずしも表しきれていない。

## 【将来医療体制】

- ・将来、人口や疾病構造が減るからこの医療は要らないということはないし、少子化が進むから周産期医療や小児医療が必要ないなどということにはならない。

【構想区域内での自己完結】

- ・この地域では肺がんの人が 45%しか構想区域内で診てもらっていない、あるいは、放射線治療なども 2 割 3 割といった状況がある。本当に二次保健医療圏内で完結しないといけないのかというのは問題点として残るかと思う。

【住民意見】

- ・地域医療構想の策定に当たっては住民の視点が大変重要になってくる。住民の意見が反映できるようにしていただきたい。

【訪問歯科】

- ・訪問歯科については以前から積極的に取り組んではいるが、訪問でどの程度の治療ができるのかという問題もある。在宅の患者の口腔ケアならよいが、そこから進んで、歯科治療となると、何らかの公的なフォロー等、診療室に来てもらえる体制をつくるのが在宅医療の充実になると考えている。

【訪問薬剤指導】

- ・薬剤師会として在宅には当然力を入れているし、訪問服薬指導も行っている。

【医療従事者の確保・養成】

- ・看護職関係では、増やす、定着させるということだけではなく、今話題になっている保育園問題がとても大きい。保育士さんの育成・確保も含めて、もう少し具体的に打ち出していくべき。
- ・神奈川県内で、平塚から西は県内の就職先として選ばれにくい状況だと感じている。さらに、就職した人たちに地元で定着してもらえるように、特に若い人たちをつなぎ止める対策を考えていかないと非常に厳しい。
- ・県西地域で確保できる人材は非常に少ない。増えているところがあっても、全体として増えているわけではないこともあり、対策を考えていく必要がある。
- ・小田原医師会でも平成 29 年度から小田原高等看護専門学校の新設が予定されているが、学生が集まるかどうか。この地域の人でも地域外に行く人が多いので、学生が入りやすい、他の地域との差が出ないような対策を講じていかれると、地元に来られると思う。
- ・総合診療医が今後必要になるといいながら、その教育がはたしてうまくいっているのか、各専門医の専門制度がかなり変わってきて、その動向次第では都市部はよいが周辺地域への研修医、専門医の充実が難しくなる可能性があるのではないかという懸念を抱いている。